

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 和歌山市立広瀬小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒640-8128
和歌山市広瀬中ノ丁1-5

E-mail hirose@wakayama-wky.ed.jp

Website https://www.wakayama-wky.ed.jp/hirose/

幼児児童生徒数 男子 72 名 女子 69 名 合計 141 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「たくましく豊かに生きぬく子を育てる」を学校理念 (※もしくは活動テーマ) として、

E S D を教育方法の一つと捉え、E S D の実践を通して主体的によりよい生活や人間関係を築く力の育成を目標とした。

具体的には、伝統文化教育、食育、国際理解教育を柱に以下の活動を展開した。

① 伝統文化に係わる活動

淡路人形座をお呼びして、人形使いや語りのワークショップを体験したり、「生写朝顔日記 大井川の段」「えびす舞」に 6 年生が部分的に役割を担って表現し、鑑賞したりして、日本伝統文化の良さを持続可能に結びつける活動となった。

② 国際理解に係わる教育

和歌山市の国際交流課のシャリー先生をお呼びして、子どもたちは先生の出身であるカナダの学校生活についてプレゼンテーションを見て学習を行った。また、英語を使って歌を歌ったり、子どもの遊びを体験したりすることができた。海外の文化や言葉に触れて、その多様性を実感し、尊重する機会となった。

③ 食育に係わる学習

和歌山には、有名な高品質の果物が多い。それらの中で、和歌山産の梅を使って梅ジュースを作り、ペットボトルのキャップと引き換えに子どもたちに提供した。集めたキャップはエコキャップ運動（利益を、発展途上国の子ども向けワクチン代として寄付する運動）に活用する計画である。

また、和歌山県産柿を使って、柿大福を作って和菓子のおいしさを体感することができた。



① の写真（人形浄瑠璃）



② の写真（カナダの学校生活）



③ の写真（柿大福作り）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--------------------------------------|---|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|-----------------------------|
| J A 紀の里のウェブサイト、淡路人形座のウェブサイト |
|-----------------------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程上は、視聴覚教育、国際理解教育、食育として位置付けている。指導内容について、外部機関と連携しながら設定するようにしている。指導方法では、ICTの有効活用、体験を伴う活動、ゲストティーチャーの活用など工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年間教育計画に組み入れ学校全体で組織的、継続的に取り組めるようにしている。年度初めには、教育計画を立案し職員会議で確認するようにしている。また、年度末には教育計画の年間の反省を行い職員会議で確認するようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、学校評価を実施して教育活動のPDCAサイクルとして取り組むようにしている。学校評価は、職員、児童、保護者を対象に実施している。また、今年度から学校運営協議会を設置し、学校の教育に関して意見や助言を得ることができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信は、学校だよりやホームページでの発信を行っている。しかし、発信内容に関しては不十分な面もあり今後、充実を図っていかねばならないことが課題である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の各種団体(広瀬公民館、交通安全母の会、民生児童委員協議会、婦人会、更生保護女性会、社会福祉協議会等)と協働できるように努めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は行っていないので、今後、その方法も含め可能性を探っていかなければならない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動に留まらず子どもたちは、お互いを認め合い、助け合えることが多い。高学年は、下学年の子どもたちから憧れの対象となっており、学校をリードしてくれている。この好循環が持続可能となっていることが誇りでもある。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も、食育、国際理解教育、伝統文化教育、環境教育、地域コミュニティとの協働などの取り組みを計画していく。

食育では引き続き和歌山県の果物を使った活動やお米作り、国際理解教育では、和歌山市のALT派遣による外国語活動授業と国際理解教育、環境教育ではエコキャップ運動などを計画している。